



アーケードゲーム博物館

2015年10月12日 埼玉県熊谷市

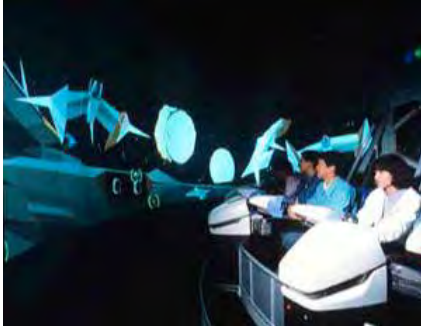
ワンダーエッグとギャラクシアン³

4年に一度のうるう年。その年にだけ存在する2月29日は、かつて二子玉川にあった「ナムコ・ワンダーエッグ」の開園記念日だ。ディズニーランドの成功が火をつけたテーマパーク人気は、バブルの勢いに乗って90年代にブームとなった。サンリオピューロランドやハウステンボスなどが開園したのも、だいたいこの時期だ。その中でゲーム分野で確固たる地位を築き上げてきたナムコが運営していたのがワンダーエッグだ。

開園は1992年2月29日。中目黒に住んでいた私は、ほんの思いつきだったが（結婚前の）妻と開園日に遊びに行った。さらに補足すると、その年の秋に入籍したのだが、その日にも遊びに行ったのだ。まあ、これはちょっとやりすぎだったかもしれない。

ワンダーエッグの目玉は「ギャラクシアン³」というアトラクションだ。1990年に大阪で開催された「花の万博」で初披露されたアトラクションが移築されてきたのだ。

ギャラクシアン³は、円筒状の空間に設置された360度のスクリーンにプロジェクタの映像を投影し、28人乗りの操縦席が油圧でダイナミックに動くシューティングタイプのアトラクションだ。ディズニーランドの「スターツアーズ」や、ユニバーサルスタジオの「バック・トゥ・ザ・フューチャー」にシューティングゲームの要素が追加されているようなものだ。この感覚が楽しめるアトラクションは、今でもないと思う。それほど強烈なインパクトがあった。



当初は週末ごとに出かけていた。アトラクションは他にもあったし、それらも楽しんだけれど、だんだんギャラクシアン³にばかり乗るようになった。当時はまだ「パスポート」という乗り放題の仕組みがなかったので、ギャラクシアン³のためだけにお金をつぎ込んでいた。これは、結婚を機に中目黒から引っ越すまで続いていたと思う。

その後は足が遠くなった。もともと50カ月という期間限定で運営されていたものが、バブル崩壊による現地の開発の遅れと、逆に好調なワンダーエッグがテーマパークを拡大して運営が続いていたのだ。ワンダーエッグ2ができた後に行ったのは一度だけだったと思う。

そのワンダーエッグも20世紀の最終日である2000年12月31日、ついに閉園する日を迎えた。私がこれを知ったのも後からだ。この年は息子が生まれた年でもあり、わかっているも年末に出かけたりはしなかっただろうが、もうあの雄姿は見られないと思うと残念だった。ディズニーリゾートにできた「イクスピアリ」というショッピングモールの名前を聞いて、ワンダーエッグじゃないのに？と思ったのも懐かしい話だ。

そのギャラクシアン³には、アトラクションタイプの他に、ゲームセンター用のアーケード版がある（ゲーム機用のソフトもあった）。これは6人乗りのものでワンダーエッグのような体感式ではないが、ゲームシナリオはアトラクションのものを踏襲している。これももちろん古いもので、ほとんど現存しないのだが、「アーケードゲーム博物館」という場所に動態保存されていることを知ったのが4年ほど前のことだ。

アーケードゲーム博物館への道

アーケードゲーム博物館を知った当時、有志の方が自分で倉庫を確保して運営されていたのが、移転が必要になっていて受け入れ先を募集していたところだった。その後、ゲームメーカーのタイトーから熊谷倉庫を借りて運営できることになったと告知されていた。

いつか行ってみたい場所であり、決して行けない距離でもなかったが、年数回の開放日を見逃したり、都合が合わなかったりしてそのままになっていた。しかし、ついにその日がやってきたのだ。

開場は10時。新幹線など使わないので自宅から熊谷駅までは2時間というところだ。熊谷駅から倉庫までも少し歩くので、7時過ぎに自宅を出て9時頃に熊谷駅に到着。タイトーの倉庫は、ここから3kmほどのところにある。

時間に余裕があると思って駅でぶらぶらしてしまったが、ここからは徒歩だ（バスがないわけじゃないが、やはり歩くと決めていた）。途中からは秩父鉄道沿いの道になる。このとき「**あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。**」の秩父鉄道じゃないか、と気付いたが舞台はだいぶ離れた場所にあるし、今日は「その日」じゃない。



この電車に乗ってけば「あの花」の舞台に行ける

アーケードゲーム博物館

のんびり写真を撮りながら歩いていたので、少しばかり時間がかかってしまったが、いよいよ現地に到着だ。「タイトーの倉庫」ということだが、昔はゲームセンターやカラオケのあった施設なのだろう。開場したばかりで、入り口には中に入る人たちが並んでいた。



倉庫の2階が博物館だ。入口で受付を済ませて中に入る。そこは、まさしくゲームセンターだった。いや、アーケードゲームが並んでいるのだからゲームセンターなのは間違いないが、ここにあるのはレトロゲームばかりなのだ。

そして、ゲームセンターとして営業されているわけでもない。博物館として無料開放されているのだ。おそらく有料で遊ばせると、本当の「ゲームセンター」として風営法の規制をうけることになるのだろう。

人は、そこそこ入っていたが混雑するというほどでもなかった。親子で来場しているのは、きっとお父さんに連れられてきているんだろうなと思ったが、若いカップルも何組かみかけた。母子、というパターンもあった。安い遊び場として知られているのかも知れない。





スターブレード

奥に「ギャラクシアン³」が見えていたが、手前にあった「スターブレード」も思い出深いゲームだ。これもナムコのUGSF（United Galaxy Space Force、銀河連邦宇宙軍）シリーズのひとつだが、ギャラクシアン³と同じ世界観を持つ1人用のアーケードゲームだ。ただ世界観が共通というだけでなく、ゲームのシナリオがカッコいいのだ。



スターブレードは、勤務先が筐塚にあるとき駅近くのゲームセンターでかなりやり込んだ。自慢できるほどうまくなったわけではないが、かなりのコインをつぎ込んだのは確かだ。

その後、新宿のゲームセンターには無限ビームが使えるイージーモードが設定されているものがあり、そこでも何度も遊んだ。2コインで最後まで行けた。

ここにある筐体は個人の所有しているものが置かれているようだが、完動品だ。ちゃんとシートが振動していた。そして、連射設定もあった。無料とはいえ、これがないと簡単には先に進めない。





懐かしいスタート画面



凹面鏡に投影することでスクリーンサイズを大きく見せ、没入感が増している



凝った設定が魅力



ハイスコア表示で流れる「Blue Flight」は名曲

ギャラクシアン³

そして「ギャラクシアン³」だ。実はアーケード版は1度しか遊んだことがなかった。ワンダーエッグ版よりも安いけれど、“それなり”だったからだ。もちろん、あんな油圧式の操縦席などゲームセンターに設置できるものないのでしかたないのだが。

それでも今、目の前にあるものは、ワンダーエッグと同じプロジェクト・ドラゴンのシナリオが稼働するホンモノだ。すごいよ！











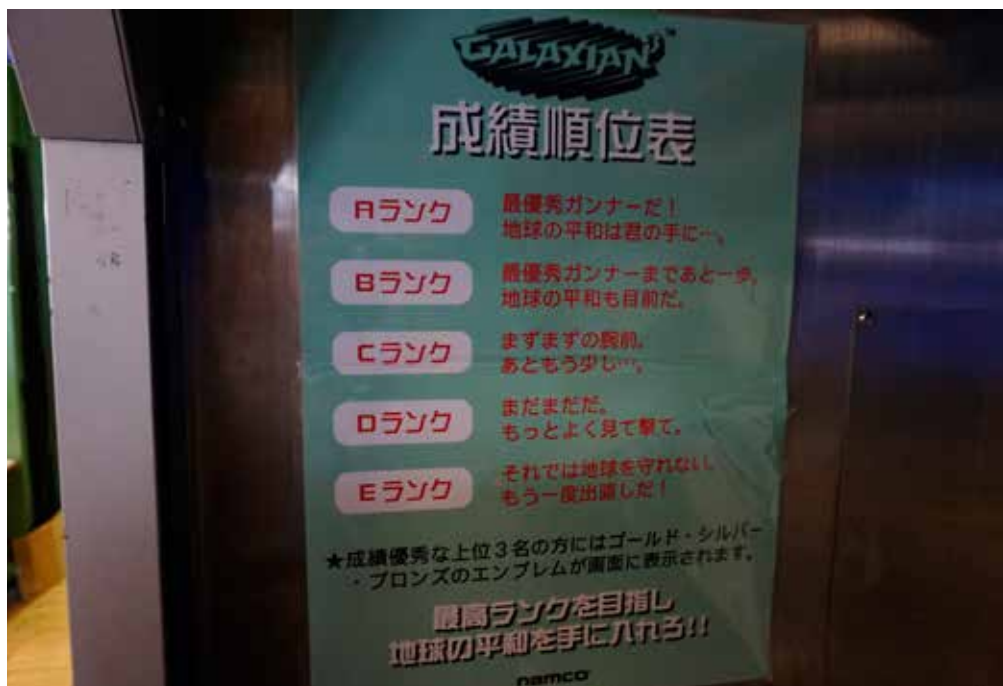
私の結果は6位（最下位） ※2回目の搭乗



タイムラグのない投影に欠かせない三管プロジェクター



普段は見ることのない設定画面



こんなランク付けもありました



当時のポスターが貼ってある側面



奥で見つけた28人乗りのものと思われる操縦桿の在庫

PLAYER'S GATE



OPERATING INSTRUCTIONS

- 1. INSERT COIN
- 2. PRESS START
- 3. MOVE JOYSTICK
- 4. PRESS FIRE
- 5. PRESS HOLD

ギャラクシアン[®] —プロジェクトドラゴン—

Final Mission:
キャンペーンを完成せよ!
最終ボスを倒すまでには、
必ずしもこのゲームをクリアする
必要はないが、このゲームをクリアする



namco

現在
RANK 4
ぶこう
ごめん、(11月)
ごめん、(11月)

GUNNER'S GATE

74% TOTAL SCORE



ゼビウス

アーケードゲーム博物館には、有志が持ち込んだゲーム機以外に、タイトー自身が保有しているゲーム機もある。そこには「インベーダーゲーム」や「電車でGO」といった、これまで懐かしいゲームが色々置かれているのだが、**撮影は禁止**されている。そこに「**ゼビウス**」があった。



ゼビウスも画期的なゲームだった。ただ飛んでくる敵を破壊するだけではないシナリオがあり、作りこまれた世界観にさまざまなキャラクターや原色ではない背景が織り込まれた、新しい世代を感じさせるゲームだった。

ゼビウスが登場した1983年、私は大学に入学し、その年の夏休みには泊まり込みでプログラミングのバイトしていた。空いた時間に近くのゲームセンターによって遊んでいたのがゼビウスだ。もっとも、最初は他人がやっているのを見ているだけだった。ゲームは苦手なのだ。かつてインベーダーゲームも遊んだことはあったが、1面すらクリアできないありさまで、お金を無駄にするだけだと思っていた。

その人が遊んでいるのを見て、なんとなくパターンを覚えていき、自分でもできるかもしれないと思ってやりはじめたのだ。まあ、そんなにうまくなるわけではなかったが、何百円かつぎ込んで最終面(16面)を超えたこともあった。

翌年、ファミリーコンピュータ(ファミコン)版が出たときにはおもちゃ屋に入荷したばかりのものを買った。たまたま「マッピー」も見つけて、とても運がよかったのだが、抱き合わせ販売(卸し)があった時期でもある。店頭に並べる間もなく人気ゲームを買われてしまったおもちゃ屋は悲しい思いをしたかもしれない。何か合わせて買ってくれないかと言われて、買った気もする。

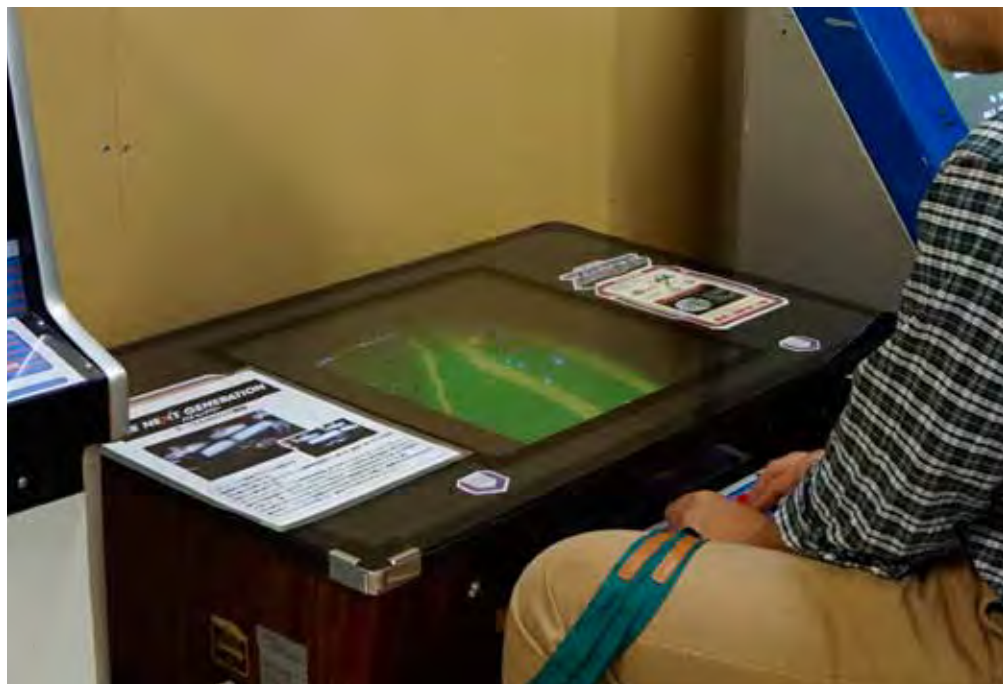
そのゼビウスが、ここにあるのだ。遊んでみたが、まったく先に進めなかった。

そして、ふと気づくと、有志のゲーム機が置かれている**撮影エリア**にもゼビウスがあった。





ピンボケなのがちょっと残念



他人の遊んでいるのを見る方が、先まで見られる

レーシングゲーム

レーシングゲームは、当時の人気カテゴリーでもあり、かなり充実していた。レーシングゲームは苦手——そもそも反射神経を競うようなものは、全面的に苦手——なのだが、懐かしい画面が動いているのを見るのは楽しかった。

どれもいわゆる「運転席」タイプだったが、撮影禁止コーナーにはもっと古い平面的なレーシングゲームもあった。いわゆる上空から見ているような感覚で運転（要するに左右移動）させるようなものだ。

平面的な描写から、運転席に座った感覚で奥行きのある描写になったのはナムコの「ポールポジション」が最初だが、それはないのは残念だった。後から博物館の人に教えてもらったが、バックヤードには「ポールポジション2」があるそうで、この日はメンテナンスが間に合わなかっただけ、ということだった。









調子が悪い筐体はその場で修理



コナミ・チェッカーフラグも「平面的」だが、これは1988年で3D的な演出もある



リッジレーサーの筐体で遊ぶサイバーコマンド（サイバースレッドの続編）



華麗にクリアされました

さまざまなゲーム

他にも、いろいろな懐かしいゲームが置かれていたし、遊んでみた。



スターブレードの幻の続編「スターブレード オペレーションブループラネット」 ※製品化されなかったらしい



真ん中は妻がお気に入りだった妖怪道中記（ただし遊んでいたのはファミコン版）



今でも人気のアイドルマスター



カードは貴重品らしい



遊び方はわかりません



当時は一度も遊んだことのなかったメタルホークもやってみた





ラリーXの曲はゲームセンターより「ラジオはアメリカン」でよく聴いた



やっぱり録りたくなるよね



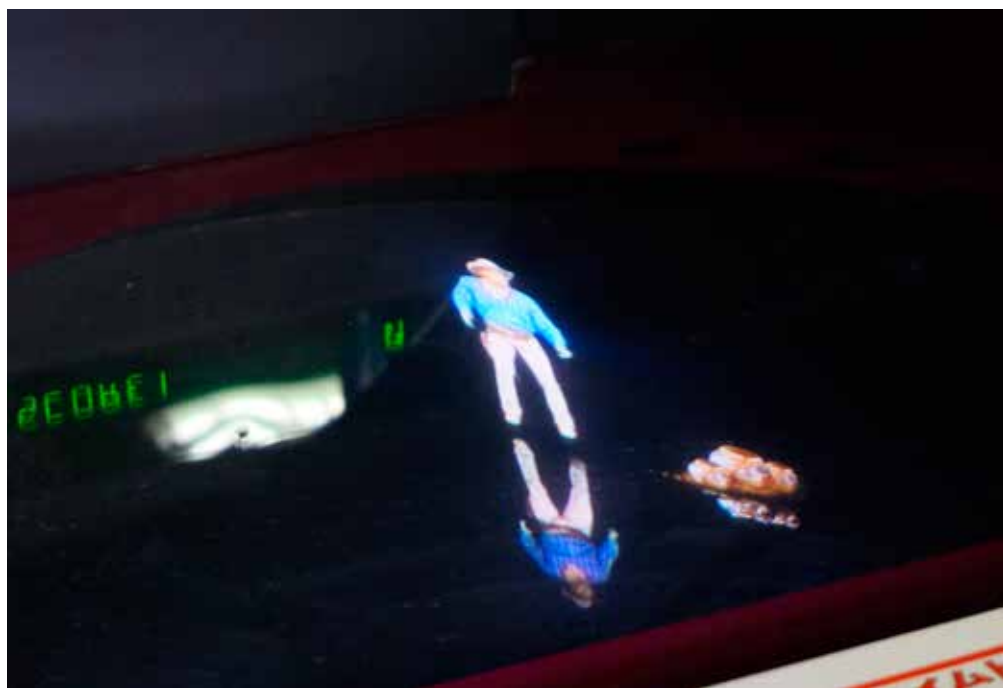
カラーモニターではなく、白黒モニターの上にセロファンが貼ってある



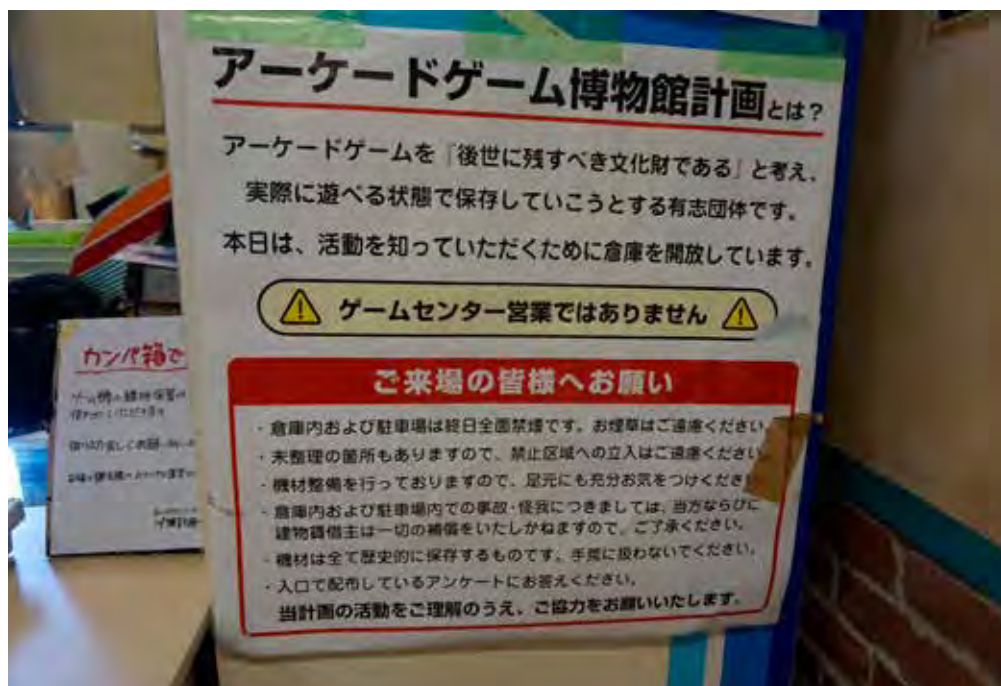
昔のポスターも



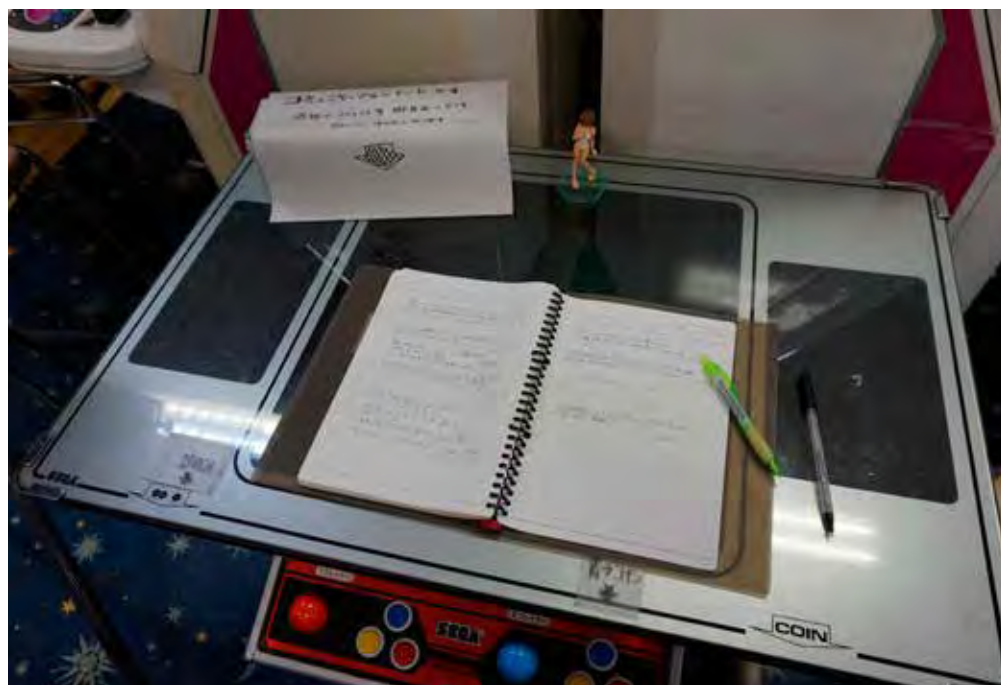
セガのタイムトラベラー 「HOLOGRAM」と書いてある



ホログラムっぽく見えるが、凹面鏡に映像を映し出しているだけ



入口付近に貼ってある案内



コミュニケーションノート









オークション

午後3時頃に屋外でオークションがはじまった。関係者の方々が保有する「レトロな逸品」が出品されるもので、楽しみにしていたことのひとつだ。もちろん「オタク」たちの資金力はハンパないだろう。主催者の方も（個人的事情で）運営資金難になったときに「アイドルマスター」の筐体が高く売れて助かったという話をされていた。だから、「はじめて訪れた記念にひとつぐらい落札できればラッキー」くらいに考えていた。



最初に出品されたのは「紙もの」ということで、何種類かのポスターとゲーム用のフォントデザインの書籍だった。これをひとつずつ入札していくのかと思ったら、紙袋にまとめられていて「ひとまとめいくら」ということだった。たしかに、そんな細かくやっていたら時間が足りなくなるだろうし、個々のポスターがそんなに需要が高いのでもないだろう。

意外だったのは、入札額がそんなに上がらなかったことだ。たしかにネットオークションと違って、「ここにいる人たち」（数十人程度）だけが対象なので、興味を持つ人がいなければ当然かもしれない。だが、その対価は博物館の運営資金にもなるはずだし、みんなレトロゲームに熱中していたんじゃないの？と思った。

ポスターは知っているゲームがほとんどなかったけれど、ゲーム用のフォントデザインの書籍は興味深かったので、結局、この「ひとまとめ」を落札した。ポスターは持ち帰っても仕方がないと思って、その場にいた人に譲った。

その後のオークションも「絶対落札してやる！」というピリピリした雰囲気ではなく、たまたま同額だったときに「じゃあ、どうぞ」という和気あいあいとした雰囲気があった。私のがめり込み過ぎていただけだ。



ポスターは知っているものがほとんどなかった



いきなり落札



18禁ゲーム (エヴァンゲリオンの設定資料も入っていたらしい)



メガドライブ関係一式は小学生が落札していた ※右側のセガサターンは“現金箱”であり、出品物ではない



レトロなおもちゃやプラモデルの出品もあった



「艦これ」は、欲しがる知り合いがいそうな気もしたけど、興味がないので見送り



この日、もうひとつ落札したのが、このファミコン関連一式



このコミック「ハイスコアガール」とスーパーファミコン一式はすごく欲しかったけど自粛した



最後にサウンドトラックCDとWiiのセットが出品されて、オークションは終了。お昼に近くのファミレスで食事をした以外、ずっと過ごしていたこの場所だが、晩御飯を自宅で食べるつもりだったので、終了時刻を待たずに帰宅した。こうしてアーケードゲーム博物館での充実した一日は終わった。

翌月にも開放日があったが、これを見送ったら、今年になって当面開放できそうにないという告知があった。ギャラクシアン³が稼働不能ということだ。あくまで個人の尽力で運営されているものなので、傍観者としてわがままは言えないけれど、ふたたび開放日が迎えられることを願ってやまない。



アーケードゲーム博物館

2015年10月12日 埼玉県熊谷市

© 2015 Motohisa Ohno <http://www.mohno.com/>

※本文における商品名は、各社の商標または登録商標です。
※本文では以下のサイトからロゴやイメージなどを引用しています。
「UGSF シリーズ公式サイト」
<http://ugsf-series.com/>
バンダイナムコエンターテインメント公式サイト
<http://bandainamcoent.co.jp/>